



博物館だより

No.75 (2015.10.15)

撮影地：由利島（愛媛県松山市）2013.7.21



身近な博物学 その4

キタフナムシ *Ligia cinerascens* Budde-Lund, 1885

皆さんはフナムシという生物をご存知でしょうか？
海岸や港に行くと、すばしこく足元を歩き回っている、
ちょっと奇妙な姿の生き物です。その動きがゴキブリ
に似ているためか、苦手な方も多いかもしれません。
ムシと名前についていますが、昆虫ではなく等脚目と
いうグループに属する甲殻類の仲間です。等脚目と言
われてもピンとこないかもしれませんが、身近な生き
物ではダンゴムシがこのグループに属しています。

愛媛県海辺に生息するフナムシは1種類だと思わ
れていましたが、最近、別の種類が生息していること
がわかりました。それが写真のキタフナムシです。キ
タフナムシは名前の通り北方系の種類で、フナムシと
外見で見分けるのは難しいです。わかりやすい特徴は
触覚の長さで、キタフナムシは体の半分に届きません。
また、フナムシが水を嫌って陸側に群れているのに対
し、キタフナムシは磯浜の波打際近くで群れているの
も特徴の一つです。

四国では、徳島県で2011年に初めてキタフナムシ
の分布が確認されました。その後の調査で四国各地で
確認されましたが、いつから分布しているのか、増加
しているのか、減少しているのかなどの詳しい情報は
わかりません。現在、愛媛県のキタフナムシの分
布は松山周辺の島嶼部など一部の海岸に限られていま
すが、磯の海岸を調べれば今後も新しい生息地が見つ
かるかもしれません。

ある地域での生物の分布記録の数は、観察や研究す
る人数の多寡に左右されます。フナムシは海辺に当た
り前に生息している生き物で、なおかつ研究者も少な
いため、これまであまり気に留められてこなかったの
でしょう。そのことがつい最近まで四国でキタフナム
シが認識されてこなかった原因の一つだと考えられま
す。

(自然研究グループ 担当係長 小林真吾)

Index

話題	◆ 秋季企画展紹介 ……………	2・3
	◆ 冬季企画展紹介 ……………	4・5
活動報告	◆ 特別展「アマゾン ホントはこんなトコだった!」など ……………	6・7
催し物のお知らせ	◆ 博物館講座など ……………	6・7
	◆ プラネタリウム ◆ サイエンスショー ……………	8
利用案内	……………	8

なつかしの家電 おどろきの道具



科学・産業研究グループ 担当係長 久松洋二

愛媛県総合科学博物館の秋の企画展は科学技術をテーマに「なつかしの家電 おどろきの道具」展を開催します。家電製品が生まれて百数十年。私たちの生活を便利に、そして豊かにしてくれた家電製品は、今や生活になくてはならないものとなっています。本企画展では、これら家電製品の源流や成長の過程を実物資料でたどることを目的としています。それでは、そんな企画展「なつかしの家電 おどろきの道具」の見どころを紹介しましょう。

① 家電製品が生まれる前夜

大型で装飾に凝ったレトロな機械。電化される前の古い製品には、今のスマートなデザインとは違い、機械的な機能が持つ美しさをデザインに発見できます。材質の使いどころも現代製品と大きく異なります。そんな対比も興味深いことでしょう。



② 製品の進化、広がる多様性

私たちの生活に欠かせない家電製品。ある種の製品は登場から現代に至るまで、姿や機能を変えながら進化を続け、多様な製品となって私たちの生活にとけ込んでいます。各時代の製品を比較することで、大きさや機能の変化をたどりながら、技術の発展を確かめてください。

ここでは、初期の製品と現代の製品を並べています。この間にどのような変化が生じたのでしょうか。ぜひ展示室で確かめてください。



③ 消える技術、生まれる技術

多くの家電製品にとって、その登場は驚きを持って迎えられます。新しい機能や技術が生活を変えてくれることは、家電製品の大きな魅力です。しかし、技術の進化には終わりがなく、生活は時代ごとに少しずつ変化するため、魅力たる機能や技術はその時代だけを写す場合も少なくありません。皆さんにとって思い出の深い製品や技術はどんなものでしょう。



④ 増田健一 昭和レトロ家電コレクション

今回の企画展最大の目玉。大阪在住で30年以上に渡って昭和30年代のレトロ家電を収集し続けている増田健一さんの珠玉のコレクションを大公開します。見て楽しいレア家電が揃っている魅力の増田コレクションが、大阪以外でこれほど多く公開されるのは初めてです。この機会に、ぜひご覧いただき、昭和レトロ家電の素晴らしい魅力に触れてみてください。



企画展「なつかしの家電 おどろきの道具」

展示期間 平成27年10月10日(土)～平成27年11月23日(月祝)

場所 展示棟1階 企画展示室

入場料 常設展示観覧券が必要です。

企画展「なつかしの家電 おどろきの道具」では、このほかに愛媛県ゆかりの家電製品の紹介や展示室をもっと楽しめるイベントなども実施しています。詳しくは、当館ホームページをご覧ください。

<http://www.i-kahaku.jp>

イラスト 早司周平

瀬戸内海にまつわる「？」

自然研究グループ 担当係長 小林真吾

はるか昔から、瀬戸内海は人々の移動や物資の交易で重要な海域でした。古代の港・熟田津は万葉集の歌にも詠まれ、来島海峡を本拠地とした村上水軍は戦国から安土桃山時代に大きな足跡を残しました。現代では、私たちの生活に結びついた様々な恩恵を与えています。このように身近な瀬戸内海ですが、よく考えると意外と知らないことがあります。

瀬戸内海の名前はいつから？

日本人の歴史と深くかかわってきた「瀬戸内海」ですが、意外にもその呼び名が定着したのは明治時代以降のことなのです。古来、日本では土地の領域は「○○の国」として呼ばれていました。それと同様に、瀬戸内海では「○○灘」という呼び名で海域を、「瀬戸」という名で海峡部を呼び習わしてきました。愛媛県沿岸の瀬戸内海では伊予灘、斎灘、燧灘という海域があり、周辺には播磨灘、備後灘、安芸灘、周防灘、響灘などの海域があります。ところがそれらの総称としての海域の名称は存在せず、江戸時代の中頃になってようやく「瀬戸内」という海域が歴史的な文書のなかに現れてきます。ただしこのころの「瀬戸内」は芸予諸島から西側を指していたようです。やがて明治初期に内務省によって編纂された「日本地誌提要」に、「淡路島以西、山陽四国の間、島嶼碁布、是ヲ瀬戸内海ト云フ」として「瀬戸内海」が記されました。瀬戸内海の「瀬戸」は先に述べたとおり狭まった海峡部の呼び名に由来しており、写真の備讃瀬戸のほか速吸瀬戸や音戸瀬戸などがあります。



屋島から眺めた備讃瀬戸

瀬戸内海ってどこからどこまで？

目の前に広がる瀬戸内海。さて、その「端っこ」は一体どこにあるのでしょうか？ 瀬戸内海の東端が江戸から明治にかけて変わったように、海域の認識は時代とともに変化してきました。現代の瀬戸内海は、実は法律によって範囲が異なっているのです。地図を見るとわかるように、瀬戸内海には南側に2ヶ所、北側に1ヶ所の開口部があります。この開口部をどこで区切るかが、法律によって異なります。



佐田岬

漁業法や領海法では、紀伊水道と豊予海峡、関門海峡で区切られています。詳しくは紀伊水道の南端は和歌山県の日ノ御碕と徳島県の蒲生田岬を結ぶ線、豊予海峡は伊方町の佐田岬と大分県の関崎を結んだ線、関門海峡は山口県の火ノ山下灯台と福岡県の門司崎灯台を結ぶ線で区切られた範囲となります。

瀬戸内海が公園？

とても広い範囲に広がる瀬戸内海が「公園」・・・？ ちょっとイメージがわからないかもしれませんね。ここでいう「公園」は、ブランコやすべり台がある公園ではなく、日本が誇る豊かな自然環境や景観に恵まれた場所としての公園、国立公園です。瀬戸内海は、1934年に国立公園に指定されました。1931年（昭和6年）国立公園法が施行され、3年後に指定された3つの国立公園のうちの1つが瀬戸内海なのです。明治以降に日本を訪れた欧

米人の賞賛や、明治初年に欧米を歴訪した岩倉使節団の報告などにより、日本人が持っていた瀬戸内海の捉え方も変化していきました。そして1894年に志賀重昂が記した「日本風景論」、1911年に小西和が記した「瀬戸内海論」など日本人による瀬戸内海の評価が、指定される要因となりました。

最初は香川県の寒霞渓や屋島、五色台と岡山県の鷲羽山などと両県間の備讃瀬戸を中心とした地域と、広島県の一部（鞆の浦周辺）が指定地域でした。その後、徐々に指定区域が広がり、現在では愛媛県を含む10県にまたがっています。ちなみに、国立公園は現在までに32ヶ所が指定され、瀬戸内海国立公園は昨年に指定80周年を迎えました。



寒霞渓

瀬戸内海で発見された生き物がいる？

周囲を10府県に囲まれ、多くの人が住んでいる瀬戸内海。いろいろな生き物がいるとは思いますが、新種が発見されることなんて無いのでは・・・と思われる方が多いのではないのでしょうか。確かに太平洋などの大洋と比べると水深は浅いし、環境も多様とは言えないかもしれませんが。そんな瀬戸内海でも、数は少ないですが初めて見つかる新種の生き物がいるのです。

瀬戸内沿岸の地名がついている生き物に「オノミチキサンゴ」があります。オノミチキサンゴはその名の通り広島県の尾道周辺の海域で発見されたサンゴの仲間です。藻類と共生して南の海でサンゴ礁をつくる造礁サンゴとは異なります。生きているときは全体的に黄色～橙色で樹木状、水深5メートル前後より深いところに生息しています。海の底からあがる宝物としての瀬戸内海各地で網にかかったものを神社などに奉納する習慣があります。名前に「瀬戸内」がついている生き物もあります。海藻の仲間には「セトウチフジマツモ」「セトウチハネグサ」という2種類の瀬戸内海特産種があります。どちらも発見されたのは比較的最近で、今までのところ瀬戸内海以外では確認されていません。



オノミチキサンゴ

このほか、愛媛にゆかりのある地名がついている生物には、ゴゴシマユムシというユムシやクダコギヌという海藻などがあります。

瀬戸内海の中でも特に生物の多様性が高いとされる山口県上関町の長島で実施された生物相の調査では、ナガシマツボという新種の貝のほか、多くの希少な貝類が確認されています。瀬戸内海は身近な海でありながら、まだ調べ切れていない場所が多く残っています。じっくり観察すると、新しい発見に出会えるかもしれませんね。

国立公園に指定された後、瀬戸内海沿岸には開発の波が押し寄せ、渚は埋め立てられ海洋の汚染が進みました。その後、無秩序な開発に歯止めをかけ環境を保全するための法律が制定され、現在では徐々に美しい景観と豊かな生物相を取り戻しつつあります。瀬戸内海がさらに豊かな自然を取り戻し、いつまでも私たちにとって「めぐみの海」であり続けるために、もっと瀬戸内海のことを学び考えていきたいものです。

愛媛県総合科学博物館では、身近な海・瀬戸内海について学ぶ企画展「めぐみの海・瀬戸内海」を開催します。会期は平成27年12月12日（土）～平成28年1月31日（日）、会期中には自然観察会や講演会、ワークショップなどを実施します。身近な海・瀬戸内海について、楽しく学んでみませんか？

(参考文献)

『瀬戸内海事典』北川建二ほか編。南々社。

『瀬戸内海の文化と環境』白幡洋三郎編著。神戸新聞総合出版センター。

『瀬戸内海の発見』西田正憲。中央公論社。

『長島の自然』日本生態学会中国四国地区会。

特別展「アマゾン ホントはこんなトコだった！！」

平成27年7月18日（土）から9月23日（水祝）まで、特別展「アマゾン ホントはこんなトコだった！」を開催しました。アマゾン川流域に生息する生きものについて、アナコンダの巨大ロボットや魚類の水槽展示を中心に展示しました。また、実際にアマゾンを訪れた学芸員が見た現地の風景や人々の暮らしについても紹介しました。46,231人の方に入場いただき、会場内のワークショップでは17,559人の方に楽しんでいただきました。



シルバーウィーク特別イベント

「ドローンを飛ばそう！～はじめてのドローン体験～」

平成27年9月19日（土）から23日（水祝）まで、シルバーウィーク特別イベント「ドローンを飛ばそう！～はじめてのドローン体験～」を開催しました。“空の産業革命”ともいわれる「ドローン」を実際に飛ばして正しい使い方を学んでもらいました。また、ドローンの活用方法や可能性についてのパネルも展示しました。5日間で1,311人の方に体験していただきました。



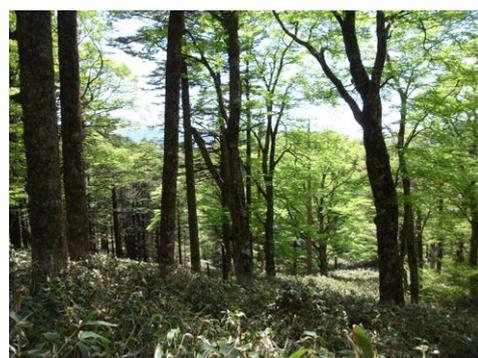
これからのイベント

巡回展「森に親しむ博物館」

平成27年10月17日（土）から11月8日（日）まで、巡回展「森に親しむ博物館」を開催します。植物レプリカをはじめ、愛媛の森に棲む生き物を展示し、森林環境の大切さについて紹介します。

場所：展示棟4階 常設展示室

料金：常設展観覧券が必要です。



開館記念・クリスマス・新春イベント

今年も以下の3つのイベントを開催します！

◆ 開館記念イベント

日にち：11月8日（日）

◆ クリスマスイベント

期間：12月19日（土）～12月20日（日）

◆ 新春イベント

期間：平成28年1月2日（土）～1月3日（日）



開館記念イベント「タネであそぼう」



博物館講座参加者募集 10月～2月

◆ 自然観察会

⑧ 渡るチョウの観察

10/18(日) 10:00～12:00

■場所…博物館周辺 ■定員…30名 ■参加費…50円
■応募締切…10/2(金) ■対象…小学生～大人 ※荒天時：中止

学び舎
えひめ

◆ 親子自然教室

④ 化石のレプリカをつくろう

11/15(日) (A) 9:30～12:00 / (B) 13:30～16:00

※受講は1回のみです。希望時間(AかB)を選んでください。
■場所…科学実験室
■定員…各12組24名 ■参加費…ひとり250円 ■応募締切…10/30(金)
■対象…小学生とその保護者 ※荒天時：実施

学び舎
えひめ

◆ 天体観望会

⑤ 秋の星座と星雲・星団II

11/14(土) 19:30～21:00

■場所…研修室、博物館天文台 ■定員…25名
■参加費…50円 ■応募締切…10/30(金) ■対象…小学生～大人
※曇天時：屋上での観察の代わりにプラネタリウムで解説を行います。

学び舎
えひめ

④ 秋の星座と星雲・星団I

10/10(土) 19:30～21:00

■場所…研修室、博物館天文台 ■定員…25名
■参加費…50円 ■応募締切…9/25(金) ■対象…小学生～大人
※曇天時：屋上での観察の代わりにプラネタリウムで解説を行います。

学び舎
えひめ

⑥ 冬の星座と月

12/19(土) 19:30～21:00

■場所…研修室、博物館天文台 ■定員…25名
■参加費…50円 ■応募締切…12/4(金) ■対象…小学生～大人
※曇天時：屋上での観察の代わりにプラネタリウムで解説を行います。

学び舎
えひめ

◆ 天文教室

③ 「コスミックカレッジ」キッズコース

1/24(日) 13:30～15:30

■場所…研修室 ■定員…15組30名 ■参加費…無料
■応募締切…1/8(金) ■対象…幼児から小学2年生とその保護者

◆ 科学実験教室

⑤ びっくり科学手品

10/11(日) 13:30～15:30

■場所…科学実験室 ■定員…20名 ■参加費…250円
■応募締切…9/25(金) ■対象…小学生～中学生

⑥ もしものときに役立つ!サイエンスサバイバル術

3/6(日) 13:30～16:30

■場所…科学実験室 ■定員…20名 ■参加費…350円
■応募締切…2/19(金)
■対象…小学生～中学生(参加者以外の見学可)

◆ 科学工作教室

③ 風船ホバークラフトを作って競争しよう

10/4(日) 13:30～16:30

■場所…科学工作室 ■定員…20名 ■参加費…350円
■応募締切…9/18(金) ■対象…小学3年生～中学生

④ 幻想的な世界が広がる!立体万華鏡をつくろう

12/6(日) 13:30～16:30

■場所…科学工作室 ■定員…20名 ■参加費…550円
■応募締切…11/20(金) ■対象…小学3年生～中学生

◆ 大人のための科学講座

② 企画展「なつかしの家電おどろきの道具」ギャラリートーク

10/31(土) 13:30～15:30

■場所…科学実験室、企画展示室 ■定員…20名 ■参加費…50円
■応募締切…10/16(金) ■対象…高校生～大人(子どもの見学可)

③ 万華鏡ワークショップ「世界に一つだけ オイル式オリジナル万華鏡の製作」

1/9(土) 13:30～16:30

■場所…科学工作教室 ■定員…20名 ■参加費…4,050円 ■応募締切…12/25(金) ■対象…高校生～大人(子どもの見学可)

◆ かんたん工作教室 11/8(日)、1/10(日)

※かんたん工作教室は申込不要です。当日博物館へお越しください。

申し込み方法

往復はがき FAX

博物館ホームページ「参加する」のフォーム

のいずれかに、下記の事項を明記して博物館まで応募ください。

①希望講座名、開催日 ②希望者全員の氏名、年齢(児童・生徒は学校名と学年) ③住所、電話番号 ④返信先FAX番号またはメールアドレス(FAXまたはインターネットでお申し込みの方のみ)

※1通につき1講座5名までお申し込みできます。

※定員に満たない場合は、申込締切後も受け付けます。

※応募多数の場合は抽選で決定し、全員に結果をお知らせします。

※応募の際の個人情報、博物館講座に関する連絡以外の目的では使用いたしません。

申し込み・問い合わせ先

ご不明な点がございましたら、お気軽に博物館までお問い合わせください。

愛媛県総合科学博物館 企画普及グループ
〒792-0060 新居浜市大生院2133-2
電話 0897-40-4100 FAX 0897-40-4101
<http://www.i-kahaku.jp/>

学び舎
えひめ

は学び舎えひめ 悠々大学の登録講座です。

詳しくは、愛媛県生涯学習センター-学び舎えひめ悠々大学事務局(089-963-2111)、または、<http://www.i-manabi.jp/system/manabiya/index.html>をご覧ください。

